

武雄市小・中学校における 対話型生成AIの取り扱いについて

武雄市小・中学校保護者様

令和5年7月

対話型生成AI（Chat GPT, Bing, Bard等）とは、利用者が入力した内容について、あたかも会話をしているかのように応答ができる技術です。昨年から急速に利用が進んでいて、連日報道・メディアで取り上げられています。便利である一方、様々なリスクがあることも指摘されています。

このような状況の中、児童生徒の学習の基盤となる「情報活用能力」を育成していくために、武雄市においては、以下のように対応いたします。ご家庭のご理解・ご協力をよろしくお願いします。



01 教職員の生成AIに対するリテラシーの向上

教員研修や校務での適切な活用に向けた取組を推進し、働き方改革に繋げていきます。
ただし、授業や学習評価の業務を生成AIだけに委ねることはありません。



02 小・中学生の情報モラルの向上

著作権や肖像権、情報の真偽を見分けようとする態度や、自分で考え創造することの価値の大切さを伝えていきます。あわせて、生成AIのしくみ等を学習し、主体的に情報技術を活用する態度を育成していきます。



03 小・中学生の限定的・段階的な生成AIの活用

活用が有効または適切であると判断される場面においては、利用規約に準じて活用を進めていきます。「教職員が生成AIを操作」から「中学生が自ら生成AIを操作」と段階的に活用を進めていく計画です。



04 ご家庭の協力

生成AIはインターネットの環境下で利用できるため、学校外での利用も想定されます。ご家庭でも、生成AIについて知る機会をつくり、適切な利用をご指導ください。

長期休業中の課題での利用について

読書感想文や日記、レポート、俳句や短歌等は、対話型生成AIで短時間に作成することができてしまいます。しかし、生成AIでつくったものを、自分の作品として応募・提出することは、応募規定によっては、不適切又は不正な行為に当たり、適切な利用とはいえません。

なにより、これらの課題を通して得られる学びを大切にすることが重要です。